



木の文化を 支える森

協定の名称	実施主体
檜山古事の森	檜山古事の森育成協議会

檜山古事の森育成協議会が、檜山森林管理署檜川国有林において、神社・仏閣・旧家等の歴史的建造物の修復に必要とされる大径材の供給に役立てるため、200～400年という超長期の森づくりを進める取り組みを行っています。

江差町にある神社・仏閣・旧家等は、この地を北限として天然分布していたヒバ（ヒノキアスナロ）により建立されたものが多く、ヒバ林の殆どは松前藩による過度の伐採や山火事等の事由により著しく減少し、現在では僅かに残る程度となっています。

ヒバ材は、木目が緻密で湿気やシロアリ等の虫害に強く、耐久性の優れた良材として知られています。

そのため、郷土樹種であるヒバ（ヒノキアスナロ）林を復活し、将来の歴史的建造物修復に役立てようと、平成15年「木の文化を支える森」としての協定を締結し、これまでに1,100本の植樹活動や毎年の下刈等の手入れを行い、ヒバ林の復活と400年先の大径材生産を目指しています。



<ヒバの植樹の様子>



<ヒバの下刈の様子>



<下刈後に参加者全員で記念撮影>



<10周年記念行事で「五勝手鹿子舞」>